

特選

山ならばアパラチアンが良いと書くいつか来る日の散骨のため

アメリカ 西岡 徳江

秀作

ピラルクの皮の塩干し売り場にて積まれし山ゆふたつ選びぬ

ブラジル 足立 有基

網と竿持ちて真つ直ぐこぎてゆく誰も触れるな少年の朝

アメリカ 西岡 徳江

ワイアナエの山のおもとの小学校みんで「アロハ」と山にあいさつ

アメリカ コーヘ聖子

朝靄に重なる島影数知れず瀬戸内海は山浮かぶ海

フランス 重光 紀子

佳作

ブラジルの国花イペーの花咲けば桜に見たて酌む花見酒

ブラジル 宿利 嵐舟

南極の風運び来し秋冷のラテンの空は日本晴れなり

ブラジル 新井 均

街路樹の大アボカド風にゆれ頭上に注意の立て札があり

ブラジル 井上富美子

ヒロ湾の淡き夕焼け背に受けてイワシをねらう少年ひとり

アメリカ 原 葉

大群の鮭が来たとの知らせ有りモントレー湾に釣り糸垂ら

アメリカ 石井志をん

あまたなる民を襲いし雨なれど夕べ砂漠に虹を架けたり

アメリカ 中條喜美子

未知の味メープルベークンドーナツはてらりと濡れて妖怪のごと

アメリカ 菊池 奏子

入選

信濃なる山国を出て半世紀外つ国に果て土に還らん

ブラジル 藤原よし子

朝市の三十メートルの鮮魚店端から見て行き端つこに鰯

ブラジル 串間いつえ

汗だくに古稀とふ山を登り終へ椰子の葉を打つ風の音きく

ブラジル 足立富士子

天空にすつくと伸びしマホガニー人の命もかくあれとこそ

ブラジル 富樫 雄輔

言葉坂文化の山々巡り行く国際婚は発見の旅

ブラジル 丸岡すみ子

人生は山あり谷あり半世紀異国に住みて老を養う

ブラジル 広田 ゆき

日毎見るイタペチの山にふるさを重ねて穏し終の住家に

ブラジル 杉田 征子

カンボスの山に満開八重桜見惚れし人の雨に濡れ行く

ブラジル 浅海 護也

サイタサイタサクラガサイタその昔暢気そな字と師に誉められし

ブラジル 香山 和榮

人生の山坂ともに越えて来し夫の背に言う「酒はひかえめに」

ブラジル 金谷 治美

ドローン飛ぶ結婚式場春の月焦らずに気負わず移民豊の秋

ブラジル 井上 人栄

この国の祖先となるは我が夫婦力の限り頑張つたと

ブラジル 新井 知里

桜樹にはし袋ひとつ結ばれて願いごとかも横文字の見ゆ

ブラジル 金藤 泰子

まつ青の空と草原続く中ストーンヘッジの巨石群立つ

ブラジル 尾身千枝子

土佐なまり父の温顔優しかり自慢の喉で十八番よさこい

ブラジル 三宅 珠美

若き日に飛驒山脈に挑みたる魂を忘れず背すじを伸ばす

アメリカ ホイラップ厚子

故郷の祭りの山車をかけ声の「ヤッサヤレヤレ」今もなづきに

アメリカ 中原キャシー

果樹園を拓きて建ちし特養にここぞとばかり満開の桃

アメリカ 青木 泰子

激しさは持つべきものか溶岩の吹き上ぐ色に陽は没したり

アメリカ 近藤 秀子

一粒の神の涙は海になり山を作りて我を育む

アメリカ 冷 順子

マンゴーのたわなに実る狭間には揺れて果てなきハワイの青空

アメリカ 鷗川 登旨

夏終り九月に山頂雪ときくシエラの麓にわが子住むなり

アメリカ 古田パーキ

ぐんぐんとハイキングの足速くなり何時私は山姥になる

アメリカ 石井志をん

われら住む砂の盆地を開む山遠き昔に海より生れぬ

アメリカ 中條喜美子

距離感をようやく縮めて山の背にいのち波打つ父の寝姿

ドイツ 三原はるみ

栈橋は海風キラキラ吹き抜けて麦わら帽子に夏の落書き

フランス 重光 紀子

国王の崩御の翌朝国中が静かに深く黒を纏えり

タイ 森上美恵子

貿易風に我も鷗も抗いてサイーッサイと江差追分

ニユーカレ
ドナ 川村美砂子